

事例項目	05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力・特別支援教育に係る情報発信
概要	特別支援教育コーディネーターが各連携高等学校を訪問しての情報交換とその対応
事例提供校	高校： 西部地区 連携高校 特支： 浜名特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	・特別支援学校との繋がりをどのようにもったらよいか分からないので、教えて欲しいです。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	・連携する各高等学校に訪問し、情報交換する中で高等学校の現状とニーズを把握しました。 ・訪問時に授業の様子を含めて校内参観をしたり、支援が必要と考える生徒について担任からの相談に対応したりしました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のように、授業見学に来て、担任からの相談にのってもらいたいです。 ・進路関係の情報提供、特に福祉的な就労に関しての情報を得たいです。 ・発達障害なのかどうかを判断するための情報提供や行動の見立てについての助言が欲しいです。 ・教室などの環境調整について教えてもらいたいです。 ・生徒や保護者の相談に乗ってほしいし、高校へのケース会議に加わって欲しいです。 ・発達に特化した相談に対応してもらいたいです。 ・教育相談委員会に月に1回参加し、生徒の対応などの相談にのってほしいです。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校に行くことを本人や保護者が希望しない、または進路に関する多様な情報を得ることなく高等学校を選択した発達障害の特性が強い生徒が少なからずいることが分かりました。その生徒達は、学校への適応が困難になっていて、教員も指導方法に悩んでいる状況があるので、今後も高等学校への支援が継続的にできるといいと考えます。 ・高校生は、発達障害だから適応に困難さをもっているのか、その困難さから環境的な要因が加わりより適応に困難さがあるのかなど、複雑でどんなケースか判断が難しいです。その場合は、スクールカウンセラーなど心理の専門家に対応するほうがより適切だと思います。 ・特別支援学校が発揮できる機能は、主に、卒業後の進路に関する情報提供、自立活動に関する相談や環境調整などの教育相談です。学習面での個別的フォローについては、難しいと考えます。 ・どの高等学校も困っている生徒の支援をしようという意識が高く、今後は校内体制を明確化し、教員同士の情報共有などを進めていくのが良いと思います。

まとめ
特別支援学校のコーディネーターは、高等学校の先生方を支えるのが大きな役割と考えています。「一緒に考える」というスタンスを大切にしていきたいと思いますので、気軽に連絡してください。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	06 ケース会議 01 障害の特性理解・実態把握 05 学校体制づくりのサポート
概要	ケース会議から具体的教育支援へ向けての相談
事例提供校	高校： 西部地区 全日制 特支： 掛川特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<p>【肢体不自由車椅子生徒の教育支援について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 より良い保護者対応、介助員研修をどう進めることがよいかですか。 2 介助員の訴えや要望にどう応えたらよいですか。 3 本人の困り事と各教科担任の困り事、介助員の困り事や訴え等を、どう整理してよいか分かりません。 4 「合理的配慮」が何なのか分からなくなっています。
	<p>特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人を取り巻く介助員や教職員の困り感と訴えを一覧にして整理しました。 ・機能面についての合理的配慮を明確にし、共通理解することや合理的配慮と称していることが、実際のところ不必要なことだったり、過剰なサービスだったりしていることを指摘しました。 ・車椅子に乗っていても、同じ高校生の生徒指導と同じことを求めることを助言しました。 ・介助員の役割や学校として求めていることを明確に提示することを助言しました。 ・保護者が我が子を育ててきた背景と歴史を十分に尊重した上で、相互に相談したり協議したり明確な説明ができたりする関係であることを助言しました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・言い出せなかったことが、「これで良かったんだと」確信できました。 ・本人に遠慮していたことが間違っていたことだと分かりました。 ・介助員への研修をどのような目的でやればよいか分かりました。 ・配慮すべき点とそうでない部分が整理できました。 ・介助員へも本人へも、どのような対応や関わり方をすることが望ましいのかを共通理解しました。 ・介助員研修実施計画に、また研修支援として協力してほしいです。
	<p>特別支援学校 担当者のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介助員からのアンケート、教科担当からのアンケートをとり関係教職員でケース会議を行ったことは良かったが、そのケース会議では情報共有だけに留まり、具体的にどんな作業を誰がどのように進めていくのかという明確で具体性を持つところまでにはいたりませんでした。

まとめ	
<p>本事例は、生徒への教育支援だけでなく、「正しい合理的配慮の考え方」「配慮と称した過剰介入」「優しさという人権侵害」「介助者とセルフコントロール」など、背景に多岐にわたった問題を抱えていました。関わる全ての人が良い人権感覚と正しい特別支援教育の考え方が必要だと感じました。</p>	

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導 05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力特別支援教育に係る情報発信・
概要	要支援生徒の進路指導の相談
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校（伊豆高原分校）

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該高等学校のコーディネーターより、在籍する支援を必要とする生徒に対する、進路指導の進め方、在籍中に学校が行っておくとよいことなどのアドバイスを求められました。 ・他の全日制普通科高校よりも就労を希望する生徒の割合が多いが、支援を要する生徒について一般的な進路指導に当てはまらない部分も多い。そこで、特別支援学校での進路指導を参考にしました。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・成育歴やこれまでの支援について確認したうえで、ケース会議を設定し、具体的にどのような支援を必要としているかを確認しました。 ・本人が必要とする支援内容が確認できたところで、それに対する支援機関や移行支援、卒業後の相談機関についてレクチャーを行いました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・本人にあった進路先を指導するうえで、特別支援学校の進路指導は大変役に立った。特に卒業後に困った時にどうするかが学校としても課題であったため、本人、家族（学校も含め）、相談できるところがあるのは心強いです。 ・ほかにも支援を必要としている生徒がいるので、今後も連携をお願いしたいです。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校でも通級がはじまり、同じように学校として進路についての悩みを抱えているケースは今後増えていくと思われます。今回のケースでは、担任が特別支援教育の経験があり、支援や制度についての説明を理解し、対応できることを感じたが、ケースや担任の経験からさらに丁寧に時間をかけて連携する事例も増えていくように思われました。それに対応できるようにするため、学校同士の連携を普段からしていきたいと考えます。

まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする生徒にとって、その必要性や支援の仕方について自分で就労先に伝えることができる生徒はいいが、そうでないことが多いと感じ、生徒と仕事のマッチングの難しさを感じる。また、卒業後相談できる情報が少ないことも生徒、家族にとって不安になると思われる。今回を機会に学校、生徒、保護者の不安が緩和できるようにしたいです。 ・また、相談内容によっては、担任やコーディネーターだけでなく、管理職、養護教諭などとも対応することがあるので、今後も積極的に連携をしていきたいです。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。